

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	家庭教育推進事業(社会教育)	会計	一般会計	事業No.	722	施策順No.	24-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-1-10-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名	生涯学習・スポーツ課				
施策	24 家庭教育の充実	事業期間	開始	終了			

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	子ども及びその家族						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		子育てをしている家庭(戸) (0歳～18歳以下の子どもがいる世帯)	10833	10655	10432	11000	10600	
	意図	体験活動を通して親子のコミュニケーションを深めてもらう。家庭の教育力を高めてもらう						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	子どもとコミュニケーションの取れている世帯の割合(%)		97.2	96	95	95.9	95	A
	子育て講座等への参加者(延べ人数)		170	391	250	428	250	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	一般参加の講座の開催により、実績は目標を上回った							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	親子体験講座の開催 体験活動を中心に、親子による自然体験、地場産業体験、環境学習等を行う。 子育てパワーアップ講座の開催 子育て世代が自分の子育てを見つめたり、違った視点から子育てについて考える機会として子育て講座を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 情報紙『地育力通信』の発行 9/1号、11/1号、12/20号、1/31号、3/10号 2 「森の語りべ入門講座(連続講座)」を実施 第1回5/8(22人)、第2回6/5(24人)、第3回7/31(18人)、第4回9/4(16人)、第5回10/9(20人) 第6回11/6(20人)、第7回12/4(17人)	1 発行回数 2 開催数 講座受講者数	1 5回 2 7回 26人
23年度実施計画	1 親子体験講座の開催 森の語りべ入門講座を終了し、親子体験講座として実施 2 子育てパワーアップ講座の開催 (1)第1回 (2)第2回 (3)第3回 (4)第4回 (5)第5回 (6)第6回  ※青少年健全育成ネットワーク構築事業で実施していた子育て講座を本事業に統合して実施する。 ※情報誌『地育力通信』の発行は、キャリア教育・体験活動の取組について情報発信し活動を促進する目的から、地育力向上連携システム推進事業に移管して実施する。	1 開催数 2 開催数 (1)参加者数 (2)参加者数 (3)参加者数 (4)参加者数 (5)参加者数 (6)参加者数	1 7回 2 6回 (1)人 (2)人 (3)人 (4)人 (5)人 (6)人

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他			25	
		一般財源	285	282	821	
		計(A)	285	282	846	
		正規職員所要時間		120		
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		429		
		トータルコスト A+B		711		

4 事業に対する市民や議会の意見

・第5次基本構想基本計画推進委員会から、「家庭教育の充実にはNPOやボランティアの持っている力を活かすべき」、「学校評議員制度を活用し学校と地域を結びつける論議が必要」との意見をいただいた。

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①基本的なしつけができる ②公共心・社会性が育つ ③親子のコミュニケーションが図られる。	施策の成果指標 またはムツ指標	地域行事・地域活動に親子で参加している割合 子どもとコミュニケーションの取れている世帯の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	森の語りべ入門講座は親子講座として定着せず、成人の講座となっている。		
	後期に向けた課題	親子体験講座を通して、親子のコミュニケーションや子どものしつけに対する意識を向上させる。 子育て世代が自分の子育てを見つめたり、違った視点から子育てについて考える機会として子育て講座を行う。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	森の語りべ入門講座は親子講座として定着せず、成人の講座となっている。		
	後期に向けた課題	親子体験講座を通して、親子のコミュニケーションや子どものしつけに対する意識を向上させる。 子育て世代が自分の子育てを見つめたり、違った視点から子育てについて考える機会として子育て講座を行う。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	飯田市のマイクロバスを使用することでコストがかからないようにした。		
	後期に向けた課題	講師の選抜時に、よりコストのかからない方法を検討する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田市のマイクロバスを利用し、主に保険料にあたる金額を受益者負担とした。		
	後期に向けた課題	過剰な飯田市負担とならないよう、受益者にも負担が必要である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①成人対象ではあったが、飯田市の里山に対する知識向上へとつながった。 ②学習機会の提供		
	後期に向けた課題	対象を親子にすることにより、体験活動を通して親子のコミュニケーションを深めてもらう。家庭の教育力を高めてもらう。		
全体を通じて	4年間の振り返り	森の語りべ入門講座は親子講座として定着せず、成人の講座となってしまった。		
	後期に向けた課題	対象を親子にすることにより、体験活動を通して親子のコミュニケーションを深めてもらう。家庭の教育力を高めてもらう。 また、森の語りべ入門講座は廃止するのではなく、親子講座の一環として実施していく。		

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--